

## 杉崎弘章先生 心よりのご冥福をお祈り申し上げます



あまりに突然の訃報に接し、語る言葉もありません。

先生は、平成11年に日本透析医会理事となられ、平成13年、私が日本透析医会会長を拝命した際に、常務理事就任をお願いしました。平成15年にはその鈴木専務理事が退任するにあたり、後任として専務理事を引き受けていただきました。

専務理事業務は、事業の進捗、金銭管理のほか、対外対応や会員からの相談や問題提起など、事務方とともに対応する業務で、全ての医会業務は常務理事を経由して展開されます。

先生は多くの委員会に関与されましたが、最も思い入れが強く、かつ多くの業績を残されましたのは、平成17年度に就任された医療安全対策委員会委員長、特に災害時透析医療対策部会委員長の時代でした。

振り返ってみますと、平成7年阪神・淡路大震災のあと、透析医療施設と患者に大きな影響を与えた地震が多発し、先生が医療安全対策委員会委員長に就任された以降も、平成17年福岡県西方沖地震、平成19年能登半島地震、平成20年岩手・宮城内陸地震があり、最後は平成23年の東日本大震災へと続きました。

この中で先生は、それまで北海道浦河沖地震から、地震と透析についての経験を報告していた赤塚東司雄先生を理事長を務める医療法人心施会の理事としてお招きし、お二人で震災直後の現地へ入られ、被災施設および患者の支援体制などについて検討されたと聞き及んでいます。

さらに、平成17年から始まった日本腎臓財団研究助成事業「災害時医療支援船事業」こそが、先生の委員長としての最大の成果と考えております。

もともとは神戸大学大学院海事科学研究科井上欣三教授の呼びかけで始まったこの事業は、日本透析医会との共同研究という形で展開され、初年度には神戸大学所属の練習船「深江丸」により、透析患者とスタッフを、神戸から大阪まで搬送するというシミュレーション航海が実施されました。平成19年の最終年には、東京海洋大学海洋工学部庄司邦昭教授の参加も得て、首都圏での災害被災者の海路による搬送が検討されました。大学所属の練習船による検証航海が実施されたのみならず、隅田川のシーバスや観光船、屋形船など民間の小型船にも災害時の水上搬送を呼びかけるという規模の大きい事業となりました。

このエネルギーな研究事業展開こそが、先生の腎不全医療にかけた情熱の延長線上にあると思われ、真骨頂と理解しております。

また、ここ数年は学会や医会研修会にご子息を伴われ、先生の後継者として嬉しそうにご紹介されておられましたのを覚えています。

さて、杉崎弘章先生、名残は尽きませんが、長きにわたる医会活動、本当にご苦勞様でした。あまりに突然なお別れですが、ここに、心からのお礼とともに、哀悼の意を表します。

どうぞ安らかに眠りください。

(日本透析医会名誉会長/増子クリニック 山崎親雄)

### 【略歴】

杉崎 弘章 (すぎさき ひろあき)  
昭和16年6月26日生

昭和43年3月  
東京医科大学卒業

昭和43年9月  
東京医科大学外科学教室入局

昭和50年4月  
調布病院外科入局

昭和63年9月  
医療法人桐光会調布病院設立に伴い管理者(院長)に就任

平成3年10月  
府中腎クリニック開設

平成4年7月  
医療法人社団心施会 理事長

平成27年5月  
医療法人社団心施会 会長

平成11年5月～平成13年5月  
日本透析医会理事

平成13年5月～平成15年5月  
日本透析医会常務理事

平成15年5月～平成27年5月  
日本透析医会専務理事

平成27年5月～令和3年5月  
日本透析医会監事